

### 日本アンダーライティング協会

# 八束滋氏(チューリッヒ生命)が新代表理事に就任 協会創立14年、次のステージへ

専門職としてのアンダーライターの育成と認知度向上に取り組んでいる日本アンダーライティング協会では、6月の理事会でチューリッヒ生命の八束滋氏が新たな代表理事に就任した。今回の理事会では同協会の立役者である原始理事3人が退任、理事・幹事を刷新した。2006年の設立当初から同協会に関わってきた八束氏は、原始理事の思いを次世代へとつなぐ役割を担う。「創立から14年、私の前の代表理事3人には協会の設立から今日まで大きく貢献していただき、組織の基盤を作っていた。この基盤に私の代で磨きをかけ、よりこれからの時代に適したかたちにして次世代へと引き継いでいきたい」と語る同氏に、今年度の取り組みについて聞いた。

――代表理事就任の所感を。

八束 今年に入って新型コロナウイルス感染症の拡大があったため、就任前から課題が山積していた。毎年5月に開催している年次大会の準備は年明けごろから本格化していき、今年は本業のアンダーライティング業務の方で新型コロナウイルス対応を余儀なくされ、その両立が難しかったただけでなく、担当理事として年次

大会の中止の判断を下さなければならなくなつた。苦渋の決断ではあったが、やむを得なかったと思つている。

――現在の資格取得者数は。

八束 試験は3種類あり、現在、初級資格合格者が4026人、中級資格合格者が1952人、上級資格合格者が1148人となっている。これは延べ人数なので、実際の資格合格者数でいうと

4026人だ。受験者の内訳を見ると、アンダーライティング部門以外にも、保険金部門やコールセンター部門に所属する人がかなりの数受験している。アンダーライティ

ング部門以外の人の中にはかなりの高成績者もあり、皆さん積極的に自己研さんに取り組んでいる姿勢がうかがわれる。

――今年度の活動について考えていることは。

八束 まさに今検討しているのは、新型コロナウイルスの感染を防ぎつつ、これまで集合形式で行っていた教育講習会をどう運営していくかという点。基本的にはウェ

ブセミナーとして実施したいと考えており、そのためのインフラを整備しているところだ。早ければ秋ごろからスタートしたいと考えている。新し

い仕組みを作り上げるのは大変な作業だが、ウェブセミナーが実現すれば、これまで時間や場所の都合で参加できなかった人も、参加しやすくなる。また、講師も現地に出張する必要がなくなるので、例えば海外などから講演してもらうことも

と考えている。具体的には、初級・中級・上級のテキストの見直しをする部会や、新契約のケーススタディーなどを研究する部会、インシュアテックなどの最新技術を研究する部会の三つを作りたい。部会には各社から有志を募るほか、外部の有識者に入ってもらつたことも検討したい。また、一

定レベル以上のアンダーライターを対象にした危険選択に関連したテーマでの懸賞論文制度も検討している。入賞者には、

た。それは素晴らしいことだが、一方で、運営サイドと会員の関係性が一方通行になっていると感じていた。そこで、会員との双方向のコミュニケーションが図れる場として部会を考えた。テキスト一つを取ってみても、これまでは限られたコアメンバーがアップデートに取り組んでいたため、かなりの負荷がかかっていた。医学の進歩も加速しているため、時代に合ったテキストを作るためには、そこに専門的に関

## コロナ禍原動力に、より価値ある組織へ

可能になるかもしれない。コロナ禍をチャンスと捉え、前向きに取り組んでいきたい。

――組織づくりの面で計画していることは。

八束 現在協会には、試験委員会、講習委員会、広報委員会が存在しているが、今後は各委員会の中に部会を設けたい

は。――部会設立の意義と

八束 この14年で協会はずいぶん大きく成長し

た。それは素晴らしいことだが、一方で、運営サイドと会員の関係性が一方通行になっていると感じていた。そこで、会員との双方向のコミュニケーションが図れる場として部会を考えた。テキスト一つを取ってみても、これまでは限られたコアメンバーがアップデートに取り組んでいたため、かなりの負荷がかかっていた。医学の進歩も加速しているため、時代に合ったテキストを作るためには、そこに専門的に関

わる人が複数必要だ。会員に参加してもらえたら、テキストの質が向上し、実務に役立つものになるだけでなく、資格試験や資格自体の価値も向上するはずだ。コミュニケーションといつても、これからはオンラインミーティングなどを活用していけば、多様なメンバ

ーに参加してもらえるところにいる。――今後、貴協会にはどのような役割が求められていくと思うか。

八束 生命保険のアンダーライターは、生命保険に加入されるお客さまが病歴や職業などのリスクに応じて公平に保険料を負担されるよう引き受ける条件を設定するという業務のほかに、会社の引き受けリスクの管理者として、商品ごとの引き受け方針や告知書の作成、マニュアルなどの基

準設定、再保険手法の活用や新たなアンダーライティングの研究なども行っている。昨今の医療や技術の進歩に伴い、アンダーライターに求められる役割が、より幅広く、深く専門性を持ったものに変化していくことは必然だ。そのような時代、当協会に求められるの

は、過去の経験に基づく単一的な情報の提供だけでなく、過去を分析し、そこから求められる未来の姿を共有し、引き受け業務の第一線で戦うアンダーライターをサポートすることにある。――会員にメッセージ

を。八束 当協会では、アンダーライターの業務に必要な知識を、教育講習会や資格試験を通じて提供するとともに、さまざまな活動を通じてアンダーライターの育成に貢献

している。コロナ禍ではあるものの、より価値ある組織になるためにできる限りの対策を講じていくので、皆さまにはぜひ自己研さんの場として当協会を活用していただきたい

です。

八束 協会では、アンダーライターの業務に必要な知識を、教育講習会や資格試験を通じて提供するとともに、さまざまな活動を通じてアンダーライターの育成に貢献

している。コロナ禍ではあるものの、より価値ある組織になるためにできる限りの対策を講じていくので、皆さまにはぜひ自己研さんの場として当協会を活用していただきたい

です。

八束 協会では、アンダーライターの業務に必要な知識を、教育講習会や資格試験を通じて提供するとともに、さまざまな活動を通じてアンダーライターの育成に貢献

している。コロナ禍ではあるものの、より価値ある組織になるためにできる限りの対策を講じていくので、皆さまにはぜひ自己研さんの場として当協会を活用していただきたい

です。

八束 協会では、アンダーライターの業務に必要な知識を、教育講習会や資格試験を通じて提供するとともに、さまざまな活動を通じてアンダーライターの育成に貢献



八束氏